

令和6年度普通会計決算認定特別委員会

令和7年10月9日（木）

〔委員会の概要 公安委員会関係〕

出席委員

委員長	福山	博史
副委員長	眞貝	浩司
委員	岡田	理絵
委員	古野	司
委員	北島	一人
委員	竹内	義了
委員	岸本	淳志
委員	坂口	誠治
委員	岡田	晋
委員	川真田	琢巳

議会事務局

議事課長	郡	公美
議事課課長補佐	小泉	尚美
議事課主任	横山	雄大

説明者職氏名

〔公安委員会〕

警察本部長	児玉	誠司
警務部長	北	啓二
警務部参事官兼首席監察官	田中	功
生活安全部長	前川	伸二
刑事部長	平岡	信吾
交通部長	勝瑞	忠
警備部長	田村	聡
警務部企画・サイバー警察局長	坂東	玲
刑事部首席参事官兼刑事企画課長事務取扱	茨木	基良
警務部参事官兼企画・サイバー警察局総務企画課長	坂東賢太郎	
警務部参事官兼会計課長	富永	健
警務部参事官兼警務課長	富田	勲
生活安全管理官兼次長	吉田	広樹
交通部参事官兼交通企画課長	南谷	雅彦
警務部監察課長	日下	達也
警備部警備課長	山本	英児

〔出納局〕

会計管理者（出納局長兼務）

森 琢真

副局長（会計課長事務取扱）

大久保 彰

---

福山博史委員長

ただいまから普通会計決算認定特別委員会を開会いたします。（10時31分）

直ちに議事に入ります。

これより公安委員会関係の審査を行います。

まず、理事者から説明を受けることにいたします。

児玉警察本部長

令和6年度決算に係る主要施策の実施状況及び決算の概要につきまして、お手元の説明資料により御説明申し上げます。

3ページを御覧ください。

令和6年中、県警察では、安全安心を誇れる徳島県の実現を運営指針として、五つの運営重点に基づき、各種施策を推進いたしました。

第1は、身近な犯罪の抑止です。

刑法犯認知件数は、平成16年以降減少や横ばいを続けてきたところですが、令和5年以降は2年連続で前年比増加となり、コロナ禍前の水準に近付きつつあるなど、今後の動向について注視すべき状況にあると認識しております。

県警察では、パトカーによる赤色灯を点灯させた警戒活動等を強化するなど、地域の治安情勢に即した効果的な犯罪抑止対策を推進してまいりました。

また、事態が急展開して重大事件に発展する可能性が高いストーカーや児童虐待事案等の女性や子供が被害に遭う人身安全関連事案に対しましては、危険性を早期に見極めた上、被害者の安全確保を最優先とした対応に努めました。

第2は重要犯罪等の徹底検挙です。

昨年中の殺人や強盗等の重要犯罪は、認知件数は55件、検挙件数は44件、検挙率は80%でした。

重要犯罪等の発生は、県民の体感治安の低下につながることから、事件を認知した際には、より多くの捜査員を投入して、現場における鑑識活動等の初動捜査を徹底し、早期解決を図りました。

また、幅広い年齢層に被害が広がっている特殊詐欺やSNS型投資・ロマンス詐欺事件につきましては、被害件数は150件、被害総額は約9億8,800万円に上るなど、依然として深刻な状況が続いております。

これらの事案に対しましては、関係被疑者の検挙や犯行グループの実態解明に向けた捜査を展開したほか、県民の抵抗力を高める啓発活動や金融機関等と連携した対策を推進したところであります。

第3は交通死亡事故の抑止です。

昨年中の交通事故死者数は33人と、前年に比べ5人増加しており、依然として高齢者が加害者、被害者となる事故が多く、高齢者の交通死亡事故抑止対策が重要な課題となって

おります。

県警察では、パトロールや交通指導取締り等の街頭活動を強化するとともに、関係機関・団体と連携して、高齢者の交通事故防止や夜間歩行者の安全確保のほか、通学路の交通安全対策等を推進し、交通死亡事故の抑止に努めました。

第4は大規模災害、テロ等への対処です。

去年は、能登半島地震をはじめ全国各地で自然災害による被害が発生しました。

また、昨年8月に続き、今年1月にも南海トラフ地震臨時情報が発表されたほか、先月にはその発生確率が60%から90%程度以上に見直されたところでもあります。

県警察では、南海トラフ巨大地震をはじめ、あらゆる自然災害に的確に対処できるよう、自治体や防災関係機関等と連携した訓練を重ね、災害時の対処能力の向上を図りました。

また、近年の国際テロ情勢を踏まえ、テロ等の事態を想定した訓練を重ねるとともに、消防、自衛隊、海上保安庁等の関係機関と連携し、テロの未然防止に向けた諸対策を推進しました。

第5は組織基盤の強化です。

近年、サイバー犯罪や特殊詐欺のような非対面型犯罪が高水準で推移しているなど、治安上の課題は、一層複雑化しているところでもあります。

県警察では、直面する諸課題に的確に対応するため、情勢の変化と組織の現状を俯瞰的に分析し、部門を超えたリソースの重点化や最先端技術の活用等による警察活動の更なる高度化等に努め、警察力全体の最適化を図ってまいりました。

また、徳島県警察・地域警察再編計画に基づく交番、駐在所の再編状況につきましても、着実に推進いたしました。

引き続き、変化する治安・地域情勢や県民の方々のニーズ等を踏まえ、組織体制の見直しや業務の合理化等を進めてまいります。

5ページを御覧ください。

主要事業の内容及び成果については、5ページから6ページにかけて、それぞれ記載のとおりでございます。

続きまして、7ページをお開きください。

歳入歳出決算額について、御説明申し上げます。

まず、（1）の歳入決算額ですが、予算現額19億1,087万9,000円に対しまして、収入済額は使用料及び手数料等、総額17億5,340万5,471円となっております。

なお、収入未済額の149万3,099円につきましては、県警察学校の給食業務委託先の契約解除に伴う違約金のほか、放置違反車両の運転者の特定が困難な場合に、その車両の使用者が納付する放置違反金が未納となっているものであります。

続きまして、（2）の歳出決算額ですが、予算現額240億4,593万2,850円に対しまして、支出済額は、人件費や施設整備費、その他活動費等で総額237億674万6,065円となっております。

説明は以上でございます。

御審議のほど、よろしくお願い申し上げます。

福山博史委員長

以上で説明は終わりました。  
これより質疑に入ります。  
それでは質疑をどうぞ。

#### 岡田理絵委員

先ほどの説明の中で、4ページの組織基盤の強化で最適化を図られたということで、それに関連して質問させていただきます。

県警察において、令和2年に策定した徳島県警察・地域警察再編計画に基づいて、現在、県内の交番や駐在所の統廃合が行われてきていますが、令和6年度の実施状況について教えてください。

#### 坂東警務部参事官兼企画・サイバー警察局総務企画課長

県警察では令和2年3月に、変化する治安・地域情勢等に的確に対応するため、徳島県警察・地域警察再編計画を策定し、一定の人口が集中する地域では24時間活動可能な警察拠点である交番を拡充しつつ、山間や沿岸部等では駐在所機能の維持を図ってきたところであります。

この計画に基づき、令和6年度には藍住町全域を管轄する藍住町交番を新たに整備、運用を開始したほか、三好市の東祖谷駐在所、阿南市の橘交番について、令和7年春の運用開始を目指し各種事業を推進したものであります。

#### 岡田理絵委員

再編は3か所で、うち2か所は今進められている現状ということがよく分かりました。

再編した結果、具体的にどういう状況になっているのかなと思ひまして、ただ最近、私のところの鳴門市も木津交番が割と大きいところに統廃合されていて、近所に小学校があるのですが、小学校の登下校の時間とかにミニパトカーが走っているというお声も頂くのですが、実際にパトロールの状況とか、その統廃合することによるメリットといえますか、住民にとって良い部分というのは、それが目的で多分統廃合をしていると思うのですが、どういう状況で実施されて、どういう効果が得られているのでしょうか。

#### 坂東警務部参事官兼企画・サイバー警察局総務企画課長

先ほど申し上げましたとおり、徳島県警察・地域警察再編計画に基づき、一定の人口が集中する地域においては、これまで昼間での活動が基本であった駐在所から、24時間活動可能な交番への再編を進めてきたものであります。その結果、特に夜間休日における事案対応能力が強化されたところでございます。

例えば、3駐在所を統合して設置しました阿南警察署橘交番につきましては、パトロール時間が徳島県警察・地域警察再編計画策定前の同時期5か月間と比較して、約500時間から約1,500時間と大幅に増加したものであります。

このほか交番、駐在所の再編を行った地域では、住民の皆様と連携した地域活動や通学路における見守り活動、巡回連絡の時間が増加するなど、一定の成果が見られるところであります。

引き続き、徳島県警察・地域警察再編計画の趣旨を踏まえ、再編の効果を地域住民の方に実感していただけるよう、警察活動に取り組んでまいりたいと考えております。

#### 岡田理絵委員

駐在所が交番になって、500時間から1,500時間、3倍のパトロール時間になったということは非常に統廃合する目的があると思う数字であるし、また、それだけいろいろなところで出る作用もあるのかなと思います。

ただ実際に地元の人からすると、駐在所とか近くにあった所にまず人がいなくなって、そこに電話が置かれて、電話を置いていたけどそこも統廃合されてというところで、その反面、見掛ける見守りのパトカーの台数が多くなったとか、あとミニパトカーも走っていて、狭い道も入ってきてくれているというような、住民の方たちもある程度の安心感は得られてはいるのですが、駆け込む所があった時代を知っている世代の方たちにとっては、あった時のほうが安心感があったというところもあります。

それとあと、高齢者の方たち、最近では若い方たちもそうですけど、特殊詐欺とか、いろんな複雑な事案が発生してきている状況にありまして、県警察としても、今も一生懸命してくださっていて、最善の状況を作っていこうと思って組織再編していただいているのは分かるのですが、今後、それ以上に、更に住民の不安を解消するためのフォローアップも検討いただけないかと思うのですが、いかがでしょうか。

#### 坂東警務部参事官兼企画・サイバー警察局総務企画課長

フォローアップについてでございますが、県警察では徳島県警察・地域警察再編計画を策定するに際して、交番、駐在所へのパトカーの配備による機動力の充実や移動交番の積極的な運用等を図るものとしたところであります。

この方針に従い設置された全ての交番や駐在所にはパトカーの配備が完了したほか、広域自動車警ら隊による再編地域での重点的な警ら活動や、統合された駐在所を警察官立ち寄り所として活用してきたところであります。

今後とも駐在所等が統合された地域の方々に再編の効果を実感していただけるよう、各種フォローアップの取組を進めてまいりたいと考えております。

#### 岡田理絵委員

今後も、警察の方たちの見える化というとおかしいですけど、こまめに回ってくださっているというところで、地域の皆さんに安心感を与えていただきたいということと、先日も少し言った、鳴門に自転車道ができて、スカイラインがあるのですが、北灘の検問所があって、その検問所があった時代には、割とみんながその交番でたくさんの警察官を見掛けたという話だったのですが、そこの地域の方たちからもパトカーがよく巡回してくれるようになったというお声も頂いています。

その統廃合で地元が無くなったら、いろいろ立ち寄り所が変わっていく部分はあろうかと思いますが、そういうふうに住めるような体制づくりということで、しっかりとフォローアップしていけるように、また、先ほどの話にあった500時間から1,500時間というパトロール、人が集約されることによって24時間体制で見守って

いけるようになるということを説明していただき、しっかりと地域と連携しながら、警察の職務は続けていけるからこそ統廃合していくのですというところも逆にアピールしていただき、地域の皆さんとともに、安心安全のために、是非よろしくお願ひしたいと申し上げて終わります。

#### 北島一人委員

私からは、7ページの歳出決算額における不用額について質問させていただきます。

まず、予算は必要だろうということで積み上げて予算立てをされて、それを1年間で執行していき、その中で不用額というのはいわゆる余った部分です。当初の計画がきちんと実行されているかどうかをチェックするということで、この不用額について確認させていただきます。

今回、1億7,800万円となっておりますけれども、この主たる項目があれば、それぞれについて金額を教えてくださいませんか。

#### 富永警務部参事官兼会計課長

ただいま、不用額について御質問を頂いたところでございます。

今回、歳出決算額の不用額といたしまして、1億7,822万7,085円という額を計上してございます。これは、予算現額の0.7%に相当いたします。

この不用額の主なものといたしましては、職員給与関連経費でございます共済費3,362万2,839円、警察施設費の工事請負費として1,341万6,351円、警察活動費の報償費として1,173万139円が見られるところです。

#### 北島一人委員

御説明いただいた中で、人件費や施設整備費が大きなのところかと思っておりますけれども、これについても当然、年度当初に細かく精査して積み上げられていると思っております。

不用額が発生した項目について、その原因を踏まえて今年度予算を立てられていると思っておりますが、まず、その原因についてと、その分析をどのようにしているか。また今後、積算の改善につなげていくところについて、どのようなお考えを持たれているのか教えてください。

#### 富永警務部参事官兼会計課長

ただいま委員から、不用額に係る原因、それから分析、今後の方針につきましての御質問を頂いております。

まず共済費につきましては、予算編成時点において、共済組合から示された基礎年金拠出金の負担率を基に積算しておりましたが、年度途中で負担率が引き下げられるとともに、その改定が令和6年4月に遡って適用されたため、当初見込みを下回り3,362万2,839円の不用額が生じたものでございます。

また、警察施設費の工事請負費につきましては、各事業における入札等で、予定価格と契約額との間で生じた差額が積み重なったことにより、1,341万6,351円の不用額が生じたものでございます。

そして、警察活動費の報償費につきましては、駐在所警察官に帯同する御家族が想定より少なかったことにより駐在所家族報償費の執行額が減ったことや、犯罪捜査活動のための諸経費等である捜査費の執行が当初見込みを下回ったことから1,173万139円の不用額が生じたものでございます。

いずれの項目も、その性質上、一定の不用額が生じることはあるものと考えておりますが、引き続き、的確な積算と適正な執行に努めてまいります。

#### 北島一人委員

不用額につきましては、適正というか、何かできていないとか不備があったものではないと認識させていただきます。

県警察の業務は治安維持ということで、ほかの部局とは全然違う特殊な業務であると思いますので、そういった中で、ほかと違う必要になる予算というか経費もぱっと出てくる可能性もあると思います。

警察の治安維持というのは非常に大事なところですので、今の分析を基に、今後の予算計上にもきちんと分析結果を反映していただくようお願いを申し上げまして、終わります。

#### 竹内義了委員

私からは、6ページの主要事業の説明の中で、サイバー空間の脅威に対する組織基盤強化事業で935万5,000円の予算が執行されておりますが、ちょうど今、アサヒグループホールディングスがランサムウェアで非常に痛手を受けていますし、県内でも数年前に半田病院が手痛い被害を受けたところです。

当時は、本当にびっくりした攻撃だったのですが、今となつては、いろんな状況の中で、いつ誰が、どこが、どういう状況になるか分からないということで、しっかりした対応をしていっていただきたいですし、相当、増加傾向にあると思っています。

ただ、報道とか、そういうことだけでは、なかなか県内の状況が分かりにくいので、県内のサイバー攻撃の状況を教えていただきたいと思います。アサヒグループホールディングスや半田病院のような深刻な被害があるのかとか、相談件数も含めて、どういった状況か、まずお聞かせいただきたいと思います。

#### 坂東警務部企画・サイバー警察局長

サイバー攻撃に関して、竹内委員から御質問がありましたけれども、令和3年に半田病院がランサムウェアで攻撃され、その翌年、令和4年には鳴門山上病院が攻撃されたという事案がございます。

また、サイバー犯罪に関する相談の受理件数につきまして、令和6年中でございませけれども、合計2,555件の相談を受理しておりまして、前年比でいいますとプラス1,011件と大幅に増加しているところでございます。

また、サイバー犯罪の検挙件数でございませけれども、令和6年度中は95件検挙しておりまして前年比プラス44件と、同じく大幅に増加しているという現状でございませ。

この増加要因につきましては様々な要因があると思いますけれども、その一つにSNSの乗っ取りやインターネットを利用した詐欺など、県民に身近な犯罪の多くにサイバー空

間が悪用されているという実態が見られまして、件数増加につながっているものと考えているところでございます。

また、被害に遭う前の段階において相談が寄せられている場合も多くございまして、県民の防犯意識の高揚も見られるところと考えております。

県警察におきましては、今後とも厳正な取締りを行うとともに、個別サイバー犯罪の手口や対策方法等について、広く県民に注意喚起してまいりたいと考えております。

#### 竹内義了委員

今、お示しいただいた数字でいうと、相当前年比で件数が増えているのが分かりますけれども、自分の周りにもSNSの乗っ取りとかが非常に多いのが実情だろうと思います。一人一人が気を付けていかなければいけないこともあります。しっかりと対応もお願いしたいと思います。

この予算ですが、今の状況等にしっかりと対応していくことが大事ですけれども、専門的な資機材や組織、いろんなことが大事になってくると思います。

当時、半田病院がランサムウェアの攻撃を受けた時にお話を聞く機会がございまして、その時には古いソフトウェアを使っていたとか、お医者さんとか病院側が、電子カルテを使い勝手が良いようにするためにセキュリティをわざわざ切っていたとか、初歩的なミスもいろいろ複合的に重なった事件だろうと捉えているのですけれども、組織として、県警察にしっかりとした組織の人員であるとか、専門性であるとか、いろんなことが必要になってくると思っています。

具体的にサイバー犯罪に対して、どのような取組を行ってきたのか、お聞かせいただきたいと思います。

#### 坂東警務部企画・サイバー警察局長

令和6年度中の具体的な取組でございしますが、まず物的基盤の強化といたしまして、迅速なサイバー捜査を推進するためのインターネット端末でありますとか解析用端末を各警察署等に配備しました。

主要5警察署につきましては、スマートフォンからデータを抽出する解析用資機材を配備するなど、サイバー捜査に不可欠な資機材の整備に努めたところでございます。

人的基盤の強化につきましては、令和6年度中は民間事業者等での勤務経験があり、専門的な知識、技能を有するサイバー犯罪捜査官を3名採用いたしまして、サイバー戦略推進課におきまして、高度な技術を要する捜査や解析等の業務に従事しているところでございます。

また、専門的なサイバー捜査支援を行うために、サイバー戦略推進課を増員いたしまして、7名体制のサイバー支援係を新設したところでございます。

加えまして、民間企業が行うログ解析でありますとか、暗号資産の追跡に関する研修を受講させるなど、サイバー人材の能力向上に取り組んできたところでございます。

引き続き、サイバー空間の脅威に的確に対処するために、装備資機材の整備や、人材の確保育成を推進してまいりまして、物的基盤、人的基盤の強化に取り組んでまいりたいと考えております。

### 竹内義了委員

人的な対応をしていただいて、資機材も含めて体制を組んでいることがよく分かりました。

ただ、相手側も相当に日々進化するでしょうし、資機材でいうと日進月歩でどんどん新しいものになっていくという中で、予算とか人的にも限りはあると思いますけれども、今後ともしっかりした体制を組んでいただきたいと思います。

お話にありましたように民間の知恵や人材、それからもちろん官も含めて、それと大学とか、その専門に当たる方もいろいろ連携を密にさせていただいて、しっかりした取組を進めてほしいし、できるなら我々もしっかりと応援して、そういう体制を組んでほしいと思います。

ただ、お金が掛かるものですから、いつも最新鋭とはいかないと思いますけれども、できるだけ迅速な予算要求や整備をお願いして、終わります。

### 岡田晋委員

5ページの交通安全施設整備事業についてお聞きします。

県の予算で交通安全対策特別交付金は1億6,742万7,000円となっておりますが、実施された金額は国の交付金をはるかに上回って、7億1,432万2,000円です。とても頑張られていると思います。県警察において、信号機や道路標識をはじめとする交通安全施設について、計画的な整備や維持管理に努められていますが、また安全で円滑な交通環境を確保するために非常に重要な事業であると認識しております。

その中で、令和6年度決算における交通安全施設整備事業は、どういうところに重点を置いて事業が進められたのでしょうか。

### 南谷交通部参事官兼交通企画課長

道路交通の安全と円滑を確保して交通事故を防止するため、信号機をはじめ標識や道路標示等の交通安全施設を整備し適切に管理していくことは、極めて重要であると認識しております。

県警察では限られた予算を効果的かつ効率的に運用し、交通実態に適合した最適な道路環境となるよう、例えば信号機能、プログラム変更などを含めました交通安全施設の設置、また更新、改良を不断に進めているところでございます。

### 岡田晋委員

事業で実施された信号機の整備、撤去方針についてお尋ねします。

県警察において、一灯点滅式信号機をはじめ不要な信号機を撤去している方針だと伺っております。

私としても、無駄な交通規制や守られないルールについては順次改善しつつ、真に必要な場所に整備していくべきだと思っておりますが、信号機の整備や撤去方針について説明願います。

#### 南谷交通部参事官兼交通企画課長

信号機は交通の安全と円滑を図ることを目的としておりまして、交差点や横断歩道における交通事故の発生や渋滞を防止するため、一定以上の交通量がある場合に極めて有効であると認識しております。

一方で、委員御指摘のとおり、信号機の設置が適切ではない場合には信号無視を誘発し、かえって交通事故の危険性が高まるなど、交通の安全と円滑に支障を及ぼすおそれがあると認識しております。

信号機の整備に際しましては、交通事故発生状況のほか道路の新設であったり、大型公共施設の設置であったり、社会情勢等の変化による交通実態に応じまして、真に必要な場所には整備を進めることとしております。

一方、大型公共施設の改廃や通学路の変更などによって交通量の変化、利用頻度が低下するなど、交通実態の変化が生じた場合であって、ほかの対策でも安全が確保されているときには、原則として信号機を撤去することとしております。

#### 岡田晋委員

一灯点滅式信号機が廃止となり、困惑している方の声も聞こえてきます。警察において過去の交通事故や交通量等の状況を踏まえて検討されているとは思いますが、地元の声も聞きながら柔軟に対応していただくよう、お願いしておきます。

次に6ページ、阿波吉野川警察署整備事業の実施事業費2,340万1,000円の予算執行についてお聞きします。

基本構想策定業務について、課題に向けた検討状況、説明資料にもあるとおり、昨年度、阿波吉野川警察署の基本構想策定業務を実施されております。

基本構想の中で、事業手法や現在地の在り方について課題にされていたと承知しておりますが、改めて課題について説明願います。また、課題に対する現在の検討状況は、どのようになっているのでしょうか。

#### 富永警務部参事官兼会計課長

ただいま委員より、基本構想策定業務における課題及び検討状況につきましての御質問を頂いたところでございます。

昨年度策定いたしました阿波吉野川警察署庁舎整備基本構想におきましては、PFI方式を含む様々な事業手法がある中で、本事業に最適な事業手法の設定でありますとか、新庁舎の整備が完了した後の現在地の在り方などを課題として挙げたところでございます。

事業手法につきましては、今年度実施しております民間活力導入可能性調査の中で、民間事業者の意向や財政負担の縮減効果、それから事業スケジュールなどの比較検討を行った結果、設計、建設、解体業務を一括して民間事業者が発注いたしますデザインビルド方式が最適であると判断したところでございます。

現在地の在り方につきましては、県や自治体による利活用の有無、若しくは民間事業者のニーズも踏まえまして、引き続き県有財産の有効活用につきまして検討を進めてまいりたいと考えております。



## 古野司委員

お聞きいたしますと、確かにそれは目的があつてというか、その対応に向けてということで非常に合理的な判断だろうと思います。

私がお聞きした方が、かなりの高齢者の方でして、問題は、いらっしゃらない駐在所にお伺いしたときに、テーブルに電話を置かれていて、こちらにお電話くださいということで、その行為を求められている。そのときに、中腰の状態で長らく電話をしなければならぬということで、何度かそういう状況に陥った高齢者の方は、私らのような年寄りはあるところへ行くことも、不在のときには行きづらい、こんな状況はどう思うかと聞かれて、私は、それは不便だと、ケース・バイ・ケースでいろいろ考えていかなければいけないと思ったので、前にもお聞かせいただき、いろいろ教えていただいたのです。

ただ、よく分かる話なのですけれど、都会での運用と、過疎地の高齢化率が80%、90%を超えた、ほとんどそういう犯罪につながらないような地域の運用の仕方というのは、柔軟に対応していくべきではないかという感情を持つのですが、その点どのようにお考えになりますか。

## 前川生活安全部長

先ほど御答弁させていただきましたとおり、駐在所等におけるセキュリティ確保の観点から現在の運用としておりますけれども、委員御指摘のとおり交番・駐在所を訪れていただく方は御高齢の方も多いたということがございまして、今、御指摘がありました御不便をお掛けする場合がありますと承知してございます。

こうした来訪者の利便性の向上につきましては、大変重要であると認識しております。

また、その一方で、交番・駐在所勤務員の安全確保についても非常に重要な課題であると考えております。

このことから、今後の交番・駐在所の安全対策と地元の実情等も踏まえ、地元の方が訪れやすい施設の在り方について不断に検討してまいりたいと考えておるところでございます。

## 古野司委員

非常に前向きな御答弁を頂きました。大変ありがとうございます。

徳島県は多分、全国でも最先端の高齢化率を走っている地域だろうと思います。

（「3番目」と言う者あり）

3番目ということらしいのですが、そういう地域ですし、特に私どもの那賀町みたいな過疎地であつたり、祖谷のほうであつたりというところ、ほとんどの地域の方が高齢者という状況の中で設置していただいている駐在所は、やはり都会とは違う見方をさせていただく、特に警察庁から御指導いただいて、そういう運用に至っているかと思うのですが、またこちらから、そういうところはどういうことをしたらいいかという逆提案をさせていただくことをお考えいただいたら非常に有り難いと思いますので、今後ともよろしく願いしまして、質問を終わります。

川真田琢巳委員

関連で6ページの阿波吉野川警察署整備事業について、何点かお聞きさせていただきたいと思います。

まず1点目、アスベスト調査でございますが、その調査結果を教えてくださいませんか。

富永警務部参事官兼会計課長

ただいま委員より、アスベストの調査結果につきましての御質問でございます。

今回のアスベスト調査につきましては、本庁舎及び阿波交番、それと署の官舎に係る調査を実施したところで、合計17検体についてアスベストを確認したところでございます。

ただし、アスベストと申しますのは、飛散の可能性、場合によってレベルが三つに分かれてございまして、レベル1が一番高いのですが、いずれも発見されたアスベストに関してはレベル2以下の検体ばかりでございます。

川真田琢巳委員

そうしましたら、新庁舎を建設予定の、今農林水産部が所有している建物に関する調査は入っていますか。

福山博史委員長

小休します。（11時14分）

福山博史委員長

再開します。（11時15分）

富永警務部参事官兼会計課長

ただいま、その移転先であります庁舎に係るアスベスト調査の御質問を頂いたところでございますが、令和6年度につきましては、この移転先のアスベスト調査についても行っております。

川真田琢巳委員

現状の確認だけさせていただいたかったのと、次に、令和6年度に徳島板野警察署と小松島警察署の機械設備の浸水対策をされていると思います。

阿波吉野川警察署においても、先ほど岡田委員からもありましたけど、浸水の懸念があるというところで、どういう対策をされたのか教えてくださいませんか。

富永警務部参事官兼会計課長

ただいま委員より、徳島板野警察署及び小松島警察署に係る浸水対策の事業について御質問を頂いたところでございます。

まず徳島板野警察署についてでございますが、受水槽の容量を増量いたしまして浸水高以上に移設するとともに、災害時に浄化槽が浸水することを想定いたしまして、臨時の排

水槽を整備した事業でございます。

小松島警察署につきましても、受水槽の容量を増量いたしまして、浸水高以上に移設いたしますとともに、浄化槽が浸水することを想定しまして臨時の排水槽を整備した事業でございます。

川真田琢巳委員

今後、建設を予定している阿波吉野川警察署に関しては、そういうところも含めて計画がなされるものだと思っておりますので、よろしくお願い申し上げます。

もう1点、これは5ページでございます。先ほど岡田委員からございましたが、藍住町交番のことでございます。

いわゆる自治体や関係団体等、藍住町役場の敷地内に建設したことにより連携した活動拠点になったというところで、私たちの阿波吉野川警察署も、敷地は違いますが吉野川市役所に隣接するということで生まれたもの、得られたメリットとか、恐らくないと思うのですが、デメリットみたいなものがあれば、お教えいただけたらと思っております。

坂東警務部参事官兼企画・サイバー警察局総務企画課長

藍住町交番についてでございますが、県警察では令和6年10月に徳島板野警察署管内の藍住町西交番と藍住町東交番を統合して、大型交番となる藍住町交番を藍住町役場の敷地の横に新設したものであります。

役場敷地内に交番を整備したことによりまして、DVやストーカー、児童虐待などの被害者支援であったり、災害対応などにおきまして、自治体とより迅速で緊密な連携が可能となって、行政サービスのワンストップ化など、様々なメリットが生じているものと考えております。

デメリットにつきましては、今は特に把握しておりません。

川真田琢巳委員

非常に良いことだと思います。ただ、阿波市も管轄でございますので、そこら辺の連携もしっかりとさせていただきたいと思っております。

最後に、また6ページでございます。

警察施設長寿命化計画事業について、令和6年度に約5.1億円の予算が執行されていると。この中で、現阿波吉野川警察署において執行された予算額や執行状況は分かりますか。

富永警務部参事官兼会計課長

ただいま、昨年度の長寿命化工事のうち、阿波吉野川警察署に係る事業についての御質問を頂いたところでございます。

当事業につきましては、主に鳴門警察署でありますとか、美馬警察署、三好警察署、あと警察学校、このあたりの改修等を実施したところでございます。

ですので、今御質問がありました阿波吉野川警察署に係る関係事業は、この中には含まれておりません。

川真田琢巳委員

もちろん、新しいのを建てるからもう少し我慢すればいいだろうという気持ちではないと思うのですが、普通に考えて恐らく今一番危険な建物でございますので、是非とも建設に向けて考えていただきたいと申し上げて、私の質問を終わります。

眞貝浩司副委員長

1点お聞きしたいところがあります。

犯罪捜査基盤整備事業で231万円となっておりますが、231万円で合っているのですよね。

今、ストーカー事件等でいろいろ大きな問題になっていると思うのですが、その中で、犯罪が起きたときに防犯カメラの設置が非常に役に立ったと思うのです。

次年度に向けて、徳島県警としては、犯罪阻止やいろんな面において、防犯カメラの設置をどのような形で考えているのか、次年度に向けてそういう整備……

（「副委員長、今年でなくて、去年の決算だから」と言う者あり）

去年が231万円ということで、令和7年度も、令和8年度も、これからこういう事業を付けていただきたいと思うので、その考え方をお聞かせいただけたらと思います。

福山博史委員長

小休します。（11時22分）

福山博史委員長

再開します。（11時23分）

平岡刑事部長

この予算については、既に付いております防犯カメラの効果的な捜査の推進と、防犯カメラ映像の解析能力向上のための費用でございます。

今後の防犯カメラについては、非常に有用性がございますので、副委員長の御指摘も踏まえまして、いろいろ検討していきたいと考えております。

眞貝副委員長

今後とも、前向きな方向で進めていただければと思いますので、よろしく願いいたします。

福山博史委員長

ほかに質疑はありませんか。

（「なし」と言う者あり）

それでは、これをもって質疑を終わります。

以上で、公安委員会関係の審査を終わります。

議事の都合により、休憩いたします。（11時24分）